

ひまわり

発行
加賀保護区保護司会

事務所
加賀市大聖寺南町
二 11-5 番地
TEL (0761) 75-7428



徳風苑への生活物資の支援

日下前会長の後を受け保護司会会長を承りました山代分区の大嶋です。



新任の挨拶

加賀保護区保護司会

会長 大嶋

茂

私の出身は金沢です。でも先祖様は山中です。毎年幼少の頃よりお盆は山中へお墓参りに来ておりました。ご先祖様の導きがあったのでしょうか、仕事の関係で加賀市へ平成十六年四月八日（お釈迦様の誕生日）に転居してまいりました。まるで水を得た魚のごとく、この地の水にびつたりと合いました。加賀市が大好きです。

小さい頃より更生保護の雑誌や保護司の方々と触れ合う機会がありました。自分自身が保護司になることには抵抗感もなくお引き受けすることができました。しかし、いざ活動を始めてみるとわからないことがばかりでありました。初めて担当した対象者は残念ながら再犯を犯してしまいました。留置所で本人と相対した時は言葉にならず、沈黙で別れたことを思い出します。その時は残念無念、何の役にも助けにもなれなかった自分が情けなく感じました。

今日、何人かの対象者と出会い、そして後に更生した方との出合いや報告を聞く喜びと安心感、良かったと感じられるようになりました。力一杯無理して対応しなくても深く見守つてあげることも大切な術であることを悟りました。

特に昨今はSNSによる顔の見えない犯罪が多発化しています。また、私たち保護司にもデジタル化の波が勢いよく訪れています。保護司単体の活動だけでなく地域の各団体との連携も大切な役割となつてきています。混沌とした社会情勢の中、保護司の在り方も変化してきているように思われます。

加賀保護区の皆様方一人一人穏やかで徳のある方々ばかりです。今日、更生保護の活動をしていると、とても心が温まり保護司の方々とのつながりの深さを改めて会長になり感じております。安心して任期いっぱい会長職を務めさせていただきます。皆様方お気づきのことがありましたらサポートセンターへご連絡、ご相談いただければと思います。

最後にぜひとも保護司会の皆様全員と手をつなぎ加賀保護区発展に貢献していきたいと願っております。簡単ですがご挨拶とさせていただきます。

新役員としての思い

保護司会の庶務に就任して

庶務 谷 口 寛

私は、四月の年次総会から、庶務の仕事を行っています。保護司を委嘱されてから六年目ですが、経験は本当に少ない保護司です。しかし、庶務を受けた以上は、仕事はしっかりと行っていかなければならないという認識は持つておられます。

先日、「サポートセンター・保護司会連合会ウェブ会議」という会議に初めて参加する機会を得ました。恥ずかしながら「保護司会連合会」という組織も庶務になるまでは知らず、加賀保護区の全容もまだ掴みきつていない状況であるため、一時間程度でしたが緊張しながら他の保護区の九人の保護司さんと会議を行いました。会が終了し、通話を切った途端にどっと疲れが出ました。新社会人の頃に、朝早くから目が覚めることがありました。今、その時に戻ったような毎朝です。

これからの私に与えられた職務は、皆さんの助けをお借りしながら、諸先輩方が積み上げてこられた加賀保護区保護司会の歴史を途切れさせないことである、と考えています。

分区分長を受けるにあたり

大聖寺分区分長 小 原 公美子

今回、分区分長のお話がきて先ず最初に浮かんだ言葉が「私が？」でした。現在の分区分長としての経験年数は丁度真ん中くらいで、まだまだ新人の気持ちの自分がいました。保護司になる時も「私が？」と思ったことを思い出し、自分は誰かに助けられて今の自分がある、次は私が誰かを助けられる人になる時だと再認識しました。この十年間を振り返り分区分長に助けられた事、励まされた事が沢山ありました。次は私が受けて来た事を返す時が来たのだと思い受ける決心をしました。私は海外の文化に触れる事が多く「NOと言えない日本人」という言葉を耳にした記憶があります。私は「YESと言える日本人」になるべきだと思います。新しい場所に進む時不安はつきものですが、その新しい経験が自分の成長に繋がり、そしてその経験が誰かの助けになると信じて、これからも周りの人の助けを借りながらですが、「YES」と言える私でありたいです。

思いやり、丁寧さを

片山津分区分長 川 渕 幸 子

片山津分区分は現在十五名です。分区分会は年四回、ほとんど夜に開催します。保護司会、理事会各部会からの事業の活動報告や事業の出席依頼などを終えて、時間があるときは現在担当している保護観察、環境調整などで困っている事、また、特殊なことなど話し合います。私は新人の時からこの時間が生の声を聞けてとても参考になりました。

先輩、後輩関係なく経験した人が、私はこんな風に対応したことがあると本音で話して下さって対象者にこんな対応までしていたのかと、思いやりや丁寧さを感じ取ることが出来とても勉強になりました。またその保護司さんへの印象まで変わるほど感心したこともあります。

こんな真面目で和やかな分区分会を私が続けられるか心配ですが、前分区分長の横河さんからも「助けます」と言ってもらえ、大船に乗った気持ちで引き受ける事を決心しました。自由になる時間が少ないなか未熟者ですが頑張ります。皆様どうぞよろしくお願い致します。

「新任協力組織部長として」

協力組織部長 黍 根 健 治

今年度より協力組織部長を引き受けることとなりました。初めての経験で最初から戸惑っています。以前、保護司をされ定年で辞められた先輩の方に、協力組織部の活動をお聞きすれば、「以前は対象者も多く介護施設の清掃活動もあつたと記憶しているが、現在実施している活動で良いと思う」と言われ、私が真剣な顔だったのか、仕事ではなくボランティアだよと笑顔で話されました。

今後の活動内容は前年の部長さん及び皆さんの指導を受けながら、微力ながら頑張っていきたいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。

人事進察

退任

令和7.6.9	駒谷 康文 山代
令和7.6.9	前山 智 山代
令和7.6.9	東谷 由一 片山津
令和7.6.9	新家千代子 山中
令和7.6.9	鹿野 祐司 片山津
令和7.3.28	都治 正人 山代

退任を迎え振り返ること

長きにわたり本当にお疲れ様でした

保護司をして良かった

前山 智

全ての出会いに感謝と反省

新家 千代子

退任にあたって

東谷 由一

私は平成五年六月に保護司を拝命しました。丁度その頃は高度経済成長下でしたので、次から次へと事件があり、数多くの対象者の方と対応させて頂きました。

又、少年事件を多数受け持つて思った事は、本人は勿論悪いのですが、家庭環境をたどれば親に問題が一番多かった様な気がします。子は親の背中を見て育つと云いますが、まさにその通りだと思えます。平成十八年頃より更生を目的として、保護司の存在が世に知れる様になったと聞いています。それ迄はどちらかといえば黒子として動いていたみたいです。

保護司をして良かったと思う事は、成人・少年事件から更生し、頑張っている人達が私に電話を掛けてくれたり、手紙をくれたりした時が何より嬉しく思います。

私は六月九日付で保護司を退任となりますが、皆様と一緒に活動出来た事を嬉しく思っています。皆様、今後共頑張ってください。有難うございました。



長いようで短い十四年、多くの関係機関の方々、保護司の先輩や仲間、そして初めて出会った保護観察対象者の人たちのお蔭で定年退職後の人生を社会と関わり、学びながら感謝の心で終えることが出来ました。

保護司の就任を依頼されたときは、果たして自分などに責任の重い仕事を務まるか不安でしたが、一人の人間として、ありのまま受け入れることでここからは繋がれると信じ、承諾のお返事を致しました。

環境調整や保護観察の面接が始まりましたが、危険や不安を感じることもなく、面談は自宅で行いました。

専門部の活動では、市内中学校、高等学校でのケース研究会、コロナ禍でのオンライン会議、能登半島大地震を受けてのボランティア活動の模索などが思い出されます。

振り返れば、この間自分は保護観察対象者の心に寄り添える本来の保護司になれなかったのではと反省しています。能登の方では復興はまだ道半ば、自分に出来ることがあれば身体の続く限りボランティア活動を続けたいと思っています。

平成二十一年に保護司を拝命し、十六年間で過ぎました。この間多くの方々に出会いそしてお世話になりました。本当にありがとうございました。この度無事に定年を迎えられたことを喜んでおります。

この間、印象に残ったことは、三名の対象者との刑務所・少年院での面接でした。人間は自由を奪われるということは非常に大変なこと、対象者のその後の人生にも大きな影響があるのではないかと思われました。出所、退院後、幸いにも一名は再犯もなく、真面目に社会生活を送っているとのこと。

担当した対象者は五名と少かったのですが、そのうち四名が再犯または再々犯で、自分の指導力が足りなかったのではないかと自問自答しています。対象者との面接、関係施設の訪問、定期研修そして社会を明るくする運動などなどの活動体験は私にとって貴重な財産になりました。

最後になりますが、皆様方のご健康と加賀保護区の益々のご発展を祈念しましてご挨拶とさせていただきます。

令和六年度 自主研修会に参加して

研修部 中谷 香代子

令和七年二月二十七日大聖寺の交流プラザさくらにて保護司二十一名参加して研修会が行なわれました。

講師は石川こころの健康センタ―中野彰英先生でした。一時間三十分が短く感じられるほど興味深い話が多くありました。

今回のテーマはアンガーマネジメント「怒りの感情としようずに付き合うために」でした。怒りの感情をなくそうと努力するのではなく、上手に付き合うことを目標としています。怒りは爆発させると自分にも相手にも向かってくるものであり、その結果、人間関係は壊れてしまい、反対に怒りを抑え込むと自分に返ってきて、うつ状態や恨みの元になってしまうということでした。

怒ることはいけないこと、抑え込まなくてはいけないものと今までは思っていました。怒りは自分を守るためのサインを発してくれる良いものと捉えることができるそうです。

私達が対象者に接する時や、家族に対して自分の怒りを感じる時、今回の講義を再び思い出し役に立たせたいと思いました。

- ・(有)加納仏壇店
- ・伊林 永幸
- ・飯貝 恵秀
- ・西野 忠夫
- ・第2なかよし丸
- ・メガネと補聴器の店やました
- ・ハウジングサービス(有)吉田燃設
- ・大杉 欽一郎
- ・(株)プロデザイン
- ・(有)奥野モータース
- ・田中 源基
- ・近藤医院
- ・(株)岸グリーンサービス
- ・東野産業(株)
- ・(有)矢田郷商店
- ・勝光寺
- ・(有)北陸食堂
- ・稲手鉄工(株)
- ・静念寺
- ・皐月会
- ・竹内電気工事(株)
- ・(株)サイエン
- ・伸光建設(株)
- ・(株)友星自動車
- ・(株)谷口工務店
- ・山中温泉料飲業協同組合
- ・山中温泉商店協同組合
- ・山中商工会
- ・(株)月星製作所
- ・(株)尾山製作所
- ・(有)興栄商会
- ・(株)ハートフル
- ・鈴木医院
- ・カフェレストラン舞楽夢
- ・燈明寺
- ・真宗大谷派 法圓寺
- ・医療法人社団 上田医院
- ・(有)いづみや
- ・宗教法人恩栄寺
- ・(株)辻酒販
- ・加賀商工会議所

更生保護事業活動にご協力ありがとうございました
令和六年度賛助会員名簿




犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ
第75回 “社会を明るくする運動”

第48回 有名作家 チャリティ作品展

2025年7月25日(金)～7月28日(月) 10時～19時30分(最終日は15時終了)
金沢エムザ2F「エムザギャラリー」

主催：「有名作家チャリティ作品展」実施委員会
後援：第75回「社会を明るくする運動」石川県推進委員会
北陸新聞社・石川テレビ放送・金沢保護観察所




令和七八年度役員紹介									
会 長	大 嶋 茂	副 会 長	浜 洋	会 計	上 出 加 喜 子	庶 務	谷 口 寛	大 神 妙 子	宮 崎 信 子
山代分区長	中村紀久枝	片山津分区長	川淵 幸子	山分区長	石橋 雅之	研修部長	飯 貝 壽代	広報部長	山下二三夫
地域活動部長	橘 博人	協力組織部長	黍根 健治						

「届ける思い」

表紙の写真について
協力組織部 大神 妙子

例年、協力組織部は保護司会の皆さんから日用品など集めて徳風苑にお届けしてきました。六年度は能登地震があり、何か協力出来ることはないかと羽咋保護司会に日下元会長からお尋ねしてもらったところ、能登は全国から生活物資が届いているとのことのお返事でした。引き続き今年も徳風苑にお届けすることにしました。加賀市更女のご協力もあり、生活物資や日用品がたくさん集まりました。また大嶋会長のはからいで加賀市の雨風で倒れた田んぼの稲を地域の子供達が手で刈り取り、天日に干して収穫したという貴重なお米の寄付もありました。車に詰め込み徳風苑に着くと、ちょうど加賀更女の方々の食事作りの日で食堂からプーンという匂いがしてきました。徳風苑でこれからの生活を立て直すようとしている方々への更女さんのあたたかい思いが実際に届いていることを確認しました。改めて私たちも小さなことを積み重ねて継続していきたいと思いました。



「お米は更女会」のためこの機関紙に付随して
[用が加賀市共同募金委員会に寄付されます]